

第4節 志望理由と自己PR（長所含む）

(1) 志望理由

志望理由は、①そもそもなぜ、教員になりたいのか、②教員の中でもなぜ、公立を選択しているのか、③公立の中でもなぜこの受験先を受けているのかの3つを考えよう。

①については、きっかけレベルで留まるのは良くない。きっかけレベルとは、例えば、「中学時代の恩師に憧れたから」とか、「大学時代に個別指導塾のアルバイトをした際に、『分かった』と喜ぶ子どもの姿をみてやりがいを感じた」とかである。こうしたきっかけから、職業として選択するまでには、深い理解があるはずで、それに言及してこそ志望理由になる。

深い理解とは、例えば、家庭環境、本人の顕在・潜在の両面にある気持ちや意志への配慮、社会が期待する教育へのまなざし、など様々なことを念頭に置いて展開するものが学校教育であるといったことである。

②については、公立＝公務員ということなので、年功序列で年老いても給料が上がるからといった働いたときに得られる待遇的な事柄を挙げるのはよくない。もちろん、親が安心するから、周囲に自慢できるからといった他者視線も受身で評価が全く得られない。

また、私立や塾は利益追求などが発生し偏った教育であるからという私教育批判により公立を志望するという発言もおかしい。そもそも民間企業や家計の納める税金がなければ公教育も成り立たないし、公立は教育基本法以下の教育法規の体系に表れている特定の価値観を体現しており、偏っていないわけではない（例えば、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくり、プログラミング教育の実施などは、教育をめぐる一つの価値観を示している）。

このように考えれば、②は公教育が展開する教育活動に共感し、携わりたいとの姿勢が求められることになる。

③は、単に「志望理由は何ですか？」と聞かれたときに「答える内容の中心」である。しかし、指導上、忘れてしまう方が多い。これは、違う職種で置き換えてみればおかしいことに気づくだろう。例えば、自動車整備士として仕事を探している人が、どの自動車メーカーの工場で働きたいかを語るときに、トヨタのここがいい、ホンダのこの点に共感したと述べるはずだ。

これと同じように、受験自治体でなぜ教員をしたいのかが中心にないよう志望理由を作成しよう。①や②は個人面接で「つつこみ」を受けたとき用に準備するか、さらっと触れる程度にしておきたい。

【発言例】

私は〇〇県が目指す××な点に共感し、私も高校教員として是非この実現に尽力したいと考え、志望致しました。特に、県の第〇次教育振興計画にある「県立高校魅力化事業」については、私自身、高校時代に△△のプログラムを推進する県内の高校で学べたことが、大学で学びたいことを発見することにつながり意義深かったため、次は自分が教員として関われたらと考えております。他にも、教員研修が盛んで、授業資料の共有化が進むなど、切磋琢磨して良い授業を作り上げようとする県教員が作り上げている風土にも惹かれております。

入職後は、どの人も社会を形成するかけがえのない存在であるという人権感覚を伝えると共に、出会った生徒がその中で輝けるよう努力する際に最大限の支援ができる教員として励む決意で志望しております。

（解説）

- ・波線は、県の教育政策を理解していることで導かれる。受験自治体の教育政策と教職員の取り組みはしっかり調べておこう。できれば、教員採用説明会にも参加し、情報を得るようにしておきたい。
- ・二重線は、地元生でゆかりがあるということと、受験自治体の教育政策をさりげなく褒める形でアピールしている（と同時に、教員を目指すきっかけの一つという面もみえてくる）ため好印象である。地元生でない場合でも、進学を機に住み実習で経験したからなどの関連性あるエピソードがあればなるべく触れよう。これらが全くない場合は教育資源に触れるなどすると良い。
- ・2段落目は、どのように働いていくかの決意という形で志望を述べている。こうすると、熱意が伝わりやすい。また、受験者の深い教育観も分かる。これは、上述の①、②を考えたからこそ出てくるもので、もしも、「教員自体をどうして志望しているか」という問いになればこの部分が中心の回答となる。